

(様式 12)

氏 名 (本籍) 河合 美貴子 (大阪府)  
学 位 の 種 類 博士 (歯学)  
学 位 記 番 号 甲 第 323 号  
学 位 授 与 日 2016 年 3 月 14 日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者 (学位規程第 11 条第 1 項該当者)  
学位論文題目 天然歯における色彩学的研究  
ー上顎左右切歯における歯冠厚径と色調の関連ー

論文審査委員 (主査) 教授 藤澤 政紀  
(副査) 教授 片山 直  
(副査) 教授 中畠 裕  
(副査) 教授 大川 周治

### 論文内容の要旨

近年、歯科審美への関心は高まり、審美修復が盛んに行われるようになった。しかしながら形態と色調を関連づけた研究は少ない。審美性の表出には、色調と形態が大きく関与する。今回、上顎切歯における色調と形態の関連について明らかにすることを本研究の目的とした。被験者として修復物などが施されていない明海大学歯学部学生 57 名 (男性 41 名, 女性 16 名: 平均年齢  $24.4 \pm 2.5$  歳) を選択した。測色器として非接触型分光光度計を用いて色調の測定を行った。また、シリコーンゴム印象材を用いて上顎前歯部の印象を採得し石膏模型を作製し、デジタルノギスを用いて歯冠厚径を測定した。色調及び厚径測定には上顎左右中切歯, 側切歯それぞれの歯面を 9 分割した測定点を対象とした。L\*, a\*, b\*, C\* と厚径との相関はいずれも中等度の関係 ( $0.463 \sim 0.604$ ) が認められた。色調において切縁部から歯頸部に向かうにつれて a\* と b\* が大きくなる傾向が認められた ( $P < 0.05$ , Scheffé-test)。臨床観点からは、上顎切歯において厚径が増加するにしたがい赤み, 黄みが増す傾向が認められた。

### 論文審査および試験結果の要旨

本研究の評価すべき点は、歯種が異なると色調に違いが認められた点と、歯軸方向で比較した場合色調, 厚径ともに有意差が認められ歯頸部に向かうにつれ赤み, 黄みが増す結果となった。

基礎的なデータを提示できたものと考えられ、色調の構築に有益なデータベースの一助となるものとして期待される。

明海大学大学院歯学研究科 河合美貴子に対する最終試験は、2016 年 1 月 15 日、主査 藤澤政紀教授、副査 片山直教授、中畠裕教授、大川周治教授により、主論文の内容および専攻学術に関し、口頭試問を持って実施した。その結果、合格と認めた。また、河合美貴子の語学試験は、大学院入学試験時の外国語試験および一年時に実施した英語コアプログラムの試験結果をもって合格とした。よって、申請者 河合美貴子の本論文は、博士 (歯学) の学位論文に値するものであり、河合美貴子は博士 (歯学) の学位を授与されるに値するものと判定した。

よって、申請者: 河合 美貴子は、博士 (歯学) の学位を授与されるに値するものと判断した。